

Title	序
Sub Title	
Author	十時, 巖周(Totoki, Toshichika)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1980
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.53, No.9 (1980. 9) ,p.5- 5
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	市川統洋助教授追悼論文集
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19800915--005

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

序

法学部専任教員で四十代半ばに急逝した研究者は、法学部の長い歴史のなかでも極めて稀な存在である。市川統洋君は、そのような稀れた研究者の一人であつた。四十代半ばといえば、それまでの学問研究のためのデッサンと基礎工事が完了し、その基礎に立つて研究活動が徐々に発酵し研究業績が結実していく時期である。市川君の研究者としての生活は、まさにそのような状態に移行しつつあつた。法学部に在職した六年六カ月、その間、同君の四編の論文が法学部機関誌に掲載されている。それらの研究成果は、いまにして思えば、同君のライフ・ワークともいふべき遠大な研究計画の確固たる布石となつていた。

同君は、晩年——なんと早すぎた晩年であつたことか——先進社会を分析する上での階級論的視座の欠落、つまり、アメリカにおける脱産業社会論に極めて批判的であつた。と同時に、十九世紀的初期階級論の教条主義にも鋭い批判の目を向けていた。三十代十年間、アメリカでの政策科学に強い関心を示してきた同君は、四十代に入つた頃から、マルクス主義社会学に深く傾倒していくようになった。真摯な苦悩にみちた思索と研究の成果をみることなく、先途有為の優れた同僚を喪つてしまった。

今回、同君の一周忌に当つて、同君の追悼記念論文集が刊行されることになった。同君の冥福を祈ること切なるものがある。

昭和五十五年九月

法学部長 十 時 嚴 周

序

五 二〇九